



やるきほんききさき
木佐木
 神奈川県議会議員
 日本共産党

2026.4.15
木佐木ただまさ news
 発行：党横浜北東地区委員会
 横浜市鶴見区潮田 3-147-6
 TEL：045-511-1021
 Profile
 ▶1984年(41歳)山口県出身
 ▶鶴見区馬場在住
 ▶神奈川大学法学部卒
 ▶よこはま健康友の会会長
 ▶横浜東民商顧問

県立高校と保健福祉大学の学ぶ権利を応援！

神奈川の教育費負担を今すぐ軽減へ！

県立高校の入学金を完全廃止に
 通信制はすでに免除されており、全日制(5,650円)の廃止も県の判断で十分可能です。

県立保健福祉大学の入学金をゼロへ
 東京都立大などの先行事例に倣い、医療・福祉を支える人材の学びの入口を広げます。

奨学金申請の「動画提出」を撤廃
 煩雑な選考プロセスが申請の壁にならないよう、手続きを抜本的に簡素化すべきです。

国の支援の「隙間」を県独自に補填
 アルバイトに追わず学業に専念できるよう、実質的な学費満額支給を目指します。

3月13日に行われた予算委員会で県立高校・大学での学費負担軽減策について質疑しました。

県立高も入学金0に出来る！

現在、県立高校の全日制では5,650円の入学金を徴収しています。実はこの金額、明確な事務コストに基づくものではなく、単に国の基準を漫然と引き写しているだけなのです。一方、通信制高校では、昭和33年から「勤労学生を支える」という県独自の立派な政治判断で入学金を免除しています。

県は「無償化は国で議論されるべき」と答弁しました。しかし私は、「通信制で独自の免除ができていのに、国待ちにするのは筋が通らない」と強く迫りました。年間約2億円の予算は県の規模なら決断可能です。引き続き、県独自の完全廃止を求めていきます。

県立大の入学金無償化で、地域の未来を担う人材を！

東京都立大学や大阪、兵庫などの公立大学では、次々と入学金や授業料の無償化に踏み切っています。本県の県立保健福祉大学は、将来の神奈川の医療や福祉を最前線で支える人材を育てる、極めて重要な

拠点です。県は「重要な財源であり、他都市の動向を注視して研究する」と答弁しました。しかし、他県に遅れをとれば、志ある優秀な若者が神奈川から流出しかねません。学びの入り口にある経済的ハードルを取り払い、学生が安心してスタートを切れるよう、完全廃止(無償化)を強く提案しました。

奨学金の使いやすさ向上へ

今年度から保健福祉大で始まった「給付制奨学金」ですが、申請に「自己PR動画の作成」などが求められています。生活費のためにアルバイトに追われる学生にとって、動画編集などの煩雑な作業は負担が重く、実際に定員割れで2次募集が行われる事態となりました。

私が「過度な要件は撤廃し、手続きを簡素化すべき」と迫った結果、県から「学生の負担感については検証し、運用の改善を検討していきたい」との重要な答弁を引き出しました。あわせて、国の支援制度だけでは足りない学費の差額分を、県独自に補填する新制度の創設も求めています。

【木佐木の視点】

優秀な学生を単に「確保」する視点ではなく、経済的な背景に関わらず、すべての意欲ある若者がアルバイトに追われずに学べる環境を整えること。これこそが、本県に求められる真の福祉の心です。県が「国の制度」を言い訳にせず、支援の隙間を埋める多角的な政策をただちに実施するよう求めたいと思います。

YOUTUBEでも紹介しています⇒

